

表 III-1-54 申請年度別の中間評価項目得点の多重比較 (第1群)

	平均値I		平均値J	平均値の差 (I-J)	標準誤差	95% 信頼区間		P	
						下限	上限		
中間評価第1群	平成11年度	平成12年度	79.26	-2.66	0.49	-4.03	-1.29	0.00 **	
		平成13年度	78.28	-1.68	0.48	-3.04	-0.32	0.01 *	
		平成14年度	77.59	-0.99	0.48	-2.35	0.37	0.42	
		平成15年度	73.18	3.42	0.48	2.06	4.78	0.00 **	
		平成12年度	79.26	平成11年度	76.60	2.66	0.49	1.29	4.03
	平成12年度	平成13年度	78.28	0.98	0.37	-0.07	2.03	0.09	
		平成14年度	77.59	1.67	0.38	0.62	2.73	0.00 **	
		平成15年度	73.18	6.08	0.37	5.03	7.13	0.00 **	
	平成13年度	平成11年度	76.60	1.68	0.48	0.32	3.04	0.01 *	
		平成12年度	79.26	-0.98	0.37	-2.03	0.07	0.09	
		平成14年度	77.59	0.69	0.37	-0.35	1.73	0.61	
	平成14年度	平成15年度	73.18	5.10	0.37	4.06	6.14	0.00 **	
		平成11年度	76.60	0.89	0.48	-0.37	2.35	0.42	
		平成12年度	79.26	-1.67	0.38	-2.73	-0.62	0.00 **	
	平成15年度	平成13年度	78.28	-0.69	0.37	-1.73	0.35	0.61	
		平成14年度	78.28	4.41	0.37	3.36	5.45	0.00 **	
		平成11年度	76.60	-3.42	0.48	-4.78	-2.06	0.00 **	
	平成15年度	平成12年度	79.26	-6.08	0.37	-7.13	-5.03	0.00 **	
		平成13年度	78.28	-5.10	0.37	-6.14	-4.06	0.00 **	
		平成14年度	77.59	-4.41	0.37	-5.45	-3.36	0.00 **	

*P<.05, ** P<.01

3) 「移動等に関連する項目 (第2群)」の中間評価項目得点の経年的変化

平成15年度が48.71点で最も低く、次いで平成11年度が65.07点で低かった。11年度と15年度は、12年度から14年度よりも有意に中間評価項目得点は、低かった。平成12年度は、67.81点で13年度の69.23点よりも有意に低かった。平成14年度は、68.43点で、平成12,13年とは、有意な差は、なかった。

表 III-1-55 申請年度別の中間評価項目得点の多重比較 (第2群)

	平均値I		平均値J	平均値の差 (I-J)	標準誤差	95% 信頼区間		P	
						下限	上限		
中間評価第2群	平成11年度	平成12年度	67.81	-2.73	0.57	-4.33	-1.14	0.00 **	
		平成13年度	69.23	-4.16	0.56	-5.74	-2.58	0.00 **	
		平成14年度	68.43	-3.35	0.56	-4.94	-1.77	0.00 **	
		平成15年度	48.71	16.36	0.56	14.78	17.95	0.00 **	
		平成12年度	67.81	平成11年度	65.07	2.73	0.57	1.14	4.33
	平成12年度	平成13年度	69.23	-1.42	0.44	-2.64	-0.20	0.01 *	
		平成14年度	68.43	-0.62	0.44	-1.85	0.61	1.00	
		平成15年度	48.71	19.10	0.44	17.87	20.32	0.00 **	
	平成13年度	平成11年度	65.07	4.16	0.56	2.58	5.74	0.00 **	
		平成12年度	67.81	1.42	0.44	0.20	2.64	0.01 *	
		平成14年度	68.43	0.80	0.43	-0.41	2.01	0.63	
	平成14年度	平成15年度	48.71	20.52	0.43	19.31	21.73	0.00 **	
		平成11年度	65.07	3.35	0.56	1.77	4.94	0.00 **	
		平成12年度	67.81	0.62	0.44	-0.61	1.85	1.00	
	平成15年度	平成13年度	69.23	-0.80	0.43	-2.01	0.41	0.83	
		平成14年度	68.43	19.72	0.43	18.50	20.93	0.00 **	
		平成11年度	65.07	-16.36	0.56	-17.95	-14.78	0.00 **	
	平成15年度	平成12年度	67.81	-19.10	0.44	-20.32	-17.87	0.00 **	
		平成13年度	69.23	-20.52	0.43	-21.73	-19.31	0.00 **	
		平成14年度	68.43	-19.72	0.43	-20.93	-18.50	0.00 **	

*P<.05, ** P<.01

4) 「複雑な動作に関連する項目 (第3群)」の中間評価項目得点の経年的変化

平成15年度が37.97点で最も低く、次いで平成11年度が42.26点、平成12年度が46.13点と低かった。13年度は、平成14年度の得点には、有意な差は、なかった。

表 III-1-56 申請年度別の中間評価項目得点の多重比較 (第3群)

	平均値I		平均値J	平均値の差 (I-J)	標準誤差	95% 信頼区間		P
						下限	上限	
中間評価第3群 平成11年度	42.26	平成12年度	46.13	-3.88	0.53	-5.37	-2.38	0.00 **
		平成13年度	48.15	-5.89	0.53	-7.37	-4.41	0.00 **
		平成14年度	48.78	-6.53	0.53	-8.01	-5.04	0.00 **
		平成15年度	37.97	4.29	0.53	2.81	5.77	0.00 **
平成12年度	46.13	平成11年度	42.26	3.88	0.53	2.38	5.37	0.00 **
		平成13年度	48.15	-2.01	0.41	-3.16	-0.87	0.00 **
		平成14年度	48.78	-2.65	0.41	-3.80	-1.50	0.00 **
		平成15年度	37.97	8.17	0.41	7.02	9.31	0.00 **
平成13年度	48.15	平成11年度	42.26	5.89	0.53	4.41	7.37	0.00 **
		平成12年度	46.13	2.01	0.41	0.87	3.16	0.00 **
		平成14年度	48.78	-0.64	0.40	-1.77	0.50	1.00
		平成15年度	37.97	10.18	0.40	9.05	11.31	0.00 **
平成14年度	48.78	平成11年度	42.26	6.53	0.53	5.04	8.01	0.00 **
		平成12年度	46.13	2.65	0.41	1.50	3.80	0.00 **
		平成13年度	48.15	0.64	0.40	-0.50	1.77	1.00
		平成15年度	37.97	10.82	0.41	9.68	11.95	0.00 **
平成15年度	37.97	平成11年度	42.26	-4.29	0.53	-5.77	-2.81	0.00 **
		平成12年度	46.13	-8.17	0.41	-9.31	-7.02	0.00 **
		平成13年度	48.15	-10.18	0.40	-11.31	-9.05	0.00 **
		平成14年度	48.78	-10.82	0.41	-11.95	-9.68	0.00 **

*P<.05, ** P<.01

5) 「特別な介護等に関連する項目 (第4群)」の中間評価項目得点の経年的変化

平成15年度が74.18点で最も低く、次いで平成11年度が79.28点と低い得点を示していた。平成12年度は83.70点で平成13年の84.24点、14年の82.97点とは、有意な差はなかった。13年度は、平成12年度の得点とは、有意な差は、なかった。

表 III-1-57 申請年度別の中間評価項目得点の多重比較 (第4群)

	平均値I		平均値J	平均値の差 (I-J)	標準誤差	95% 信頼区間		P
						下限	上限	
中間評価第4群 平成11年度	79.28	平成12年度	83.70	-4.42	0.46	-5.72	-3.11	0.00 **
		平成13年度	84.24	-4.96	0.46	-6.25	-3.67	0.00 **
		平成14年度	82.97	-3.69	0.46	-4.98	-2.39	0.00 **
		平成15年度	74.18	5.09	0.46	3.80	6.39	0.00 **
平成12年度	83.70	平成11年度	79.28	4.42	0.46	3.11	5.72	0.00 **
		平成13年度	84.24	-0.54	0.36	-1.54	0.45	1.00
		平成14年度	82.97	0.73	0.36	-0.27	1.73	0.41
		平成15年度	74.18	9.51	0.36	8.51	10.51	0.00 **
平成13年度	84.24	平成11年度	79.28	4.96	0.46	3.67	6.25	0.00 **
		平成12年度	83.70	0.54	0.36	-0.45	1.54	1.00
		平成14年度	82.97	1.27	0.35	0.28	2.26	0.00 **
		平成15年度	74.18	10.06	0.35	9.07	11.04	0.00 **
平成14年度	82.97	平成11年度	79.28	3.69	0.46	2.39	4.98	0.00 **
		平成12年度	83.70	-0.73	0.36	-1.73	0.27	0.41
		平成13年度	84.24	-1.27	0.35	-2.26	-0.28	0.00 **
		平成15年度	74.18	8.78	0.35	7.79	9.77	0.00 **
平成15年度	74.18	平成11年度	79.28	-5.09	0.46	-6.39	-3.80	0.00 **
		平成12年度	83.70	-9.51	0.36	-10.51	-8.51	0.00 **
		平成13年度	84.24	-10.06	0.35	-11.04	-9.07	0.00 **
		平成14年度	82.97	-8.78	0.35	-9.77	-7.79	0.00 **

*P<.05, ** P<.01

6)「身の回りの世話に関連する項目(第5群)」の経年的変化

平成11年度の得点が49.46点で最も低く、平成15年度の得点が62.22点と最も高かった。平成11年度よりも12年度の得点は54.88点で高いが、13,14,15年度よりも低い得点であった。平成13年度は、57.48点で平成11、12年度よりも高いが、平成15年度よりは低かった。平成14年度の58.58点とは有意な差はなかった。

表 III-1-58 申請年度別の中間評価項目得点の多重比較(第5群)

	平均値I		平均値J	平均値の差(I-J)	標準誤差	95%信頼区間		P
						下限	上限	
中間評価第5群 平成11年度	49.46	平成12年度	54.88	-5.42	0.62	-7.15	-3.69	0.00 **
		平成13年度	57.48	-8.02	0.61	-9.73	-6.30	0.00 **
		平成14年度	58.58	-9.11	0.61	-10.83	-7.39	0.00 **
		平成15年度	62.22	-12.75	0.61	-14.47	-11.03	0.00 **
平成12年度	54.88	平成11年度	49.46	5.42	0.62	3.69	7.15	0.00 **
		平成13年度	57.48	-2.60	0.47	-3.92	-1.27	0.00 **
		平成14年度	58.58	-3.69	0.48	-5.02	-2.36	0.00 **
		平成15年度	62.22	-7.33	0.47	-8.66	-6.00	0.00 **
平成13年度	57.48	平成11年度	49.46	8.02	0.61	6.30	9.73	0.00 **
		平成12年度	54.88	2.60	0.47	1.27	3.92	0.00 **
		平成14年度	58.58	-1.09	0.47	-2.41	0.22	0.20
		平成15年度	62.22	-4.73	0.47	-6.05	-3.42	0.00 **
平成14年度	58.58	平成11年度	49.46	9.11	0.61	7.39	10.83	0.00 **
		平成12年度	54.88	3.69	0.48	2.36	5.02	0.00 **
		平成13年度	57.48	1.09	0.47	-0.22	2.41	0.20
		平成15年度	62.22	-3.64	0.47	-4.96	-2.32	0.00 **
平成15年度	62.22	平成11年度	49.46	12.75	0.61	11.03	14.47	0.00 **
		平成12年度	54.88	7.33	0.47	6.00	8.66	0.00 **
		平成13年度	57.48	4.73	0.47	3.42	6.05	0.00 **
		平成14年度	58.58	3.64	0.47	2.32	4.96	0.00 **

*P<.05, ** P<.01

7)「コミュニケーションに関連する項目(第6群)」の経年的変化

平成15年度の得点が最も低く、75.68点、次いで平成11年度が78.65点と12,13,14年度よりも有意に低かった。平成12年度は、平成11年度よりも高く、13年度の82.11点よりも低かった。平成13年度は、82.11点と、11,12,15年度よりも高い得点であったが14年度とは、有意な差はなかった。

表 III-1-59 申請年度別の中間評価項目得点の多重比較(第6群)

	平均値I		平均値J	平均値の差(I-J)	標準誤差	95%信頼区間		P
						下限	上限	
中間評価第6群 平成11年度	78.65	平成12年度	80.92	-2.27	0.46	-3.57	-0.97	0.00 **
		平成13年度	82.11	-3.45	0.46	-4.74	-2.17	0.00 **
		平成14年度	81.90	-3.25	0.46	-4.54	-1.96	0.00 **
		平成15年度	75.68	2.97	0.46	1.68	4.26	0.00 **
平成12年度	80.92	平成11年度	78.65	2.27	0.46	0.97	3.57	0.00 **
		平成13年度	82.11	-1.19	0.35	-2.18	-0.19	0.01 *
		平成14年度	81.90	-0.98	0.36	-1.98	0.02	0.06
		平成15年度	75.68	5.24	0.36	4.24	6.24	0.00 **
平成13年度	82.11	平成11年度	78.65	3.45	0.46	2.17	4.74	0.00 **
		平成12年度	80.92	1.19	0.35	0.19	2.18	0.01 *
		平成14年度	81.90	0.21	0.35	-0.78	1.19	1.00
		平成15年度	75.68	6.42	0.35	5.44	7.41	0.00 **
平成14年度	81.90	平成11年度	78.65	3.25	0.46	1.96	4.54	0.00 **
		平成12年度	80.92	0.98	0.36	-0.02	1.98	0.06
		平成13年度	82.11	-0.21	0.35	-1.19	0.78	1.00
		平成15年度	75.68	6.22	0.35	5.23	7.21	0.00 **
平成15年度	75.68	平成11年度	78.65	-2.97	0.46	-4.26	-1.68	0.00 **
		平成12年度	80.92	-5.24	0.36	-6.24	-4.24	0.00 **
		平成13年度	82.11	-6.42	0.35	-7.41	-5.44	0.00 **
		平成14年度	81.90	-6.22	0.35	-7.21	-5.23	0.00 **

*P<.05, ** P<.01

8) 「問題行動に関連する項目 (第7群)」の経年的変化

平成11年度が最も低く、90.0点で次いで、平成12年度の91.53点と示された。これらの得点は、13年度の92.89点、14年度の92.79点よりも有意に低かった。平成13年度と平成14年度の92.79点、平成15年度の得点は、92.70点との間には、有意な差はなかった。

表 III-1-60 申請年度別の中間評価項目得点の多重比較 (第7群)

	平均値I		平均値J	平均値の差 (I-J)	標準誤差	95% 信頼区間		P
						下限	上限	
中間評価第7群 平成11年度	90.00	平成12年度	91.53	-1.53	0.23	-2.18	-0.88	0.00 **
		平成13年度	92.89	-2.88	0.23	-3.53	-2.24	0.00 **
		平成14年度	92.79	-2.79	0.23	-3.44	-2.14	0.00 **
		平成15年度	92.70	-2.70	0.23	-3.35	-2.05	0.00 **
平成12年度	91.53	平成11年度	90.00	1.53	0.23	0.88	2.18	0.00 **
		平成13年度	92.89	-1.35	0.18	-1.85	-0.85	0.00 **
		平成14年度	92.79	-1.26	0.18	-1.76	-0.76	0.00 **
		平成15年度	92.70	-1.17	0.18	-1.67	-0.67	0.00 **
平成13年度	92.89	平成11年度	78.65	2.88	0.23	2.24	3.53	0.00 **
		平成12年度	80.92	1.35	0.18	0.85	1.85	0.00 **
		平成14年度	82.11	0.09	0.18	-0.40	0.59	1.00
		平成15年度	81.90	0.18	0.18	-0.31	0.68	1.00
平成14年度	92.79	平成11年度	78.65	2.79	0.23	2.14	3.44	0.00 **
		平成12年度	80.92	1.26	0.18	0.76	1.76	0.00 **
		平成13年度	82.11	-0.09	0.18	-0.59	0.40	1.00
		平成15年度	75.68	0.09	0.18	-0.41	0.59	1.00
平成15年度	92.70	平成11年度	90.00	2.70	0.23	2.05	3.35	0.00 **
		平成12年度	91.53	1.17	0.18	0.67	1.67	0.00 **
		平成13年度	92.89	-0.18	0.18	-0.68	0.31	1.00
		平成14年度	92.79	-0.09	0.18	-0.59	0.41	1.00

*P<.05, ** P<.01

9) 中間評価項目得点 (新規および更新者) の経年的変化

表 III-1-61 申請年度別の中間評価項目得点の多重比較 (第1群)

	平均値I		平均値J	平均値の差 (I-J)	標準誤差	95% 信頼区間		P
						下限	上限	
中間評価第1群 平成11年度	76.60	平成12年度	84.86	-8.26	0.58	-9.88	-6.64	0.00 **
		平成13年度	83.33	-6.73	0.57	-8.33	-5.13	0.00 **
		平成14年度	83.98	-7.38	0.56	-8.96	-5.81	0.00 **
		平成15年度	79.69	-3.09	0.55	-4.63	-1.55	0.00 **
平成12年度	84.86	平成11年度	76.60	8.26	0.58	6.64	9.88	0.00 **
		平成13年度	83.33	1.53	0.63	-0.24	3.31	0.15
		平成14年度	83.98	0.88	0.62	-0.87	2.63	1.00
		平成15年度	79.69	5.17	0.61	3.45	6.89	0.00 **
平成13年度	83.33	平成11年度	76.60	6.73	0.57	5.13	8.33	0.00 **
		平成12年度	84.86	-1.53	0.63	-3.31	0.24	0.15
		平成14年度	83.98	-0.66	0.62	-2.39	1.07	1.00
		平成15年度	79.69	3.64	0.61	1.94	5.34	0.00 **
平成14年度	83.98	平成11年度	76.60	7.38	0.56	5.81	8.96	0.00 **
		平成12年度	84.86	-0.88	0.62	-2.63	0.87	1.00
		平成13年度	83.33	0.66	0.62	-1.07	2.39	1.00
		平成15年度	79.69	4.29	0.60	2.62	5.97	0.00 **
平成15年度	79.69	平成11年度	76.60	3.09	0.55	1.55	4.63	0.00 **
		平成12年度	84.86	-5.17	0.61	-6.89	-3.45	0.00 **
		平成13年度	83.33	-3.64	0.61	-5.34	-1.94	0.00 **
		平成14年度	83.98	-4.29	0.60	-5.97	-2.62	0.00 **

*P<.05, ** P<.01

表 III-1-62 申請年度別の中間評価項目得点の多重比較 (第1群)

	平均値I		平均値J	平均値の差 (I-J)	標準誤差	95% 信頼区間		P
						下限	上限	
中間評価第1群 平成12年度	77.12	平成13年度	76.49	0.64	0.46	-0.58	1.86	1.00
		平成14年度	75.00	2.12	0.47	0.89	3.36	0.00 **
		平成15年度	70.40	6.72	0.47	5.47	7.97	0.00 **
平成13年度	76.49	平成12年度	77.12	-0.64	0.46	-1.86	0.58	1.00
		平成14年度	75.00	1.49	0.46	0.27	2.71	0.01 *
		平成15年度	70.40	6.08	0.47	4.85	7.32	0.00 **
平成14年度	75.00	平成12年度	77.12	-2.12	0.47	-3.36	-0.89	0.00 **
		平成13年度	76.49	-1.49	0.46	-2.71	-0.27	0.01 *
		平成15年度	70.40	4.60	0.47	3.35	5.85	0.00 **
平成15年度	70.40	平成12年度	77.12	-6.72	0.47	-7.97	-5.47	0.00 **
		平成13年度	76.49	-6.08	0.47	-7.32	-4.85	0.00 **
		平成14年度	75.00	-4.60	0.47	-5.85	-3.35	0.00 **

*P<.05, ** P<.01

表 III-1-63 申請年度別の中間評価項目得点の多重比較 (第2群)

	平均値I		平均値J	平均値の差 (I-J)	標準誤差	95% 信頼区間		P
						下限	上限	
中間評価第2群 平成11年度	65.06	平成12年度	73.88	-8.82	0.73	-10.87	-6.77	0.00 **
		平成13年度	73.57	-8.51	0.72	-10.53	-6.48	0.00 **
		平成14年度	75.04	-9.98	0.71	-11.97	-7.98	0.00 **
		平成15年度	56.69	8.38	0.69	6.43	10.33	0.00 **
平成12年度	73.88	平成11年度	65.06	8.82	0.73	6.77	10.87	0.00 **
		平成13年度	73.57	0.31	0.80	-1.93	2.56	1.00
		平成14年度	75.04	-1.16	0.79	-3.38	1.06	1.00
		平成15年度	56.69	17.20	0.78	15.02	19.37	0.00 **
平成13年度	73.57	平成11年度	65.06	8.51	0.72	6.48	10.53	0.00 **
		平成12年度	73.88	-0.31	0.80	-2.56	1.93	1.00
		平成14年度	75.04	-1.47	0.78	-3.67	0.72	0.60
		平成15年度	56.69	16.88	0.77	14.73	19.04	0.00 **
平成14年度	75.04	平成11年度	65.06	9.98	0.71	7.98	11.97	0.00 **
		平成12年度	73.88	1.16	0.79	-1.06	3.38	1.00
		平成13年度	73.57	1.47	0.78	-0.72	3.67	0.60
		平成15年度	56.69	18.36	0.76	16.23	20.48	0.00 **
平成15年度	56.69	平成11年度	65.06	-8.38	0.69	-10.33	-6.43	0.00 **
		平成12年度	73.88	-17.20	0.78	-19.37	-15.02	0.00 **
		平成13年度	73.57	-16.88	0.77	-19.04	-14.73	0.00 **
		平成14年度	75.04	-18.36	0.76	-20.48	-16.23	0.00 **

*P<.05, ** P<.01

表 III-1-64 申請年度別の中間評価項目得点の多重比較 (第2群)

	平均値I		平均値J	平均値の差 (I-J)	標準誤差	95% 信頼区間		P
						下限	上限	
中間評価第2群 平成12年度	66.05	平成13年度	68.18	-2.13	0.52	-3.48	-0.77	0.00 **
		平成14年度	66.43	-0.37	0.52	-1.75	1.01	1.00
		平成15年度	46.05	20.00	0.53	18.61	21.39	0.00 **
平成13年度	68.18	平成12年度	66.05	2.13	0.52	0.77	3.48	0.00 **
		平成14年度	66.43	1.75	0.52	0.39	3.11	0.00 **
		平成15年度	46.05	22.13	0.52	20.75	23.50	0.00 **
平成14年度	66.43	平成12年度	66.05	0.37	0.52	-1.01	1.75	1.00
		平成13年度	68.18	-1.75	0.52	-3.11	-0.39	0.00 **
		平成15年度	46.05	20.37	0.53	18.98	21.76	0.00 **
平成15年度	46.05	平成12年度	66.05	-20.00	0.53	-21.39	-18.61	0.00 **
		平成13年度	68.18	-22.13	0.52	-23.50	-20.75	0.00 **
		平成14年度	66.43	-20.37	0.53	-21.76	-18.98	0.00 **

*P<.05, ** P<.01

表Ⅲ-1-65 申請年度別の中間評価項目得点の多重比較 (第3群)

	平均値I		平均値J	平均値の差 (I-J)	標準誤差	95% 信頼区間		P
						下限	上限	
中間評価第3群 平成11年度	42.27	平成12年度	53.11	-10.85	0.72	-12.86	-8.83	0.00 **
		平成13年度	54.58	-12.31	0.71	-14.30	-10.31	0.00 **
		平成14年度	56.66	-14.39	0.70	-16.35	-12.42	0.00 **
		平成15年度	43.69	-1.42	0.68	-3.34	0.50	0.37
平成12年度	53.11	平成11年度	42.27	10.85	0.72	8.83	12.86	0.00 **
		平成13年度	54.58	-1.46	0.79	-3.67	0.75	0.63
		平成14年度	56.66	-3.54	0.78	-5.72	-1.36	0.00 **
		平成15年度	43.69	9.42	0.76	7.28	11.56	0.00 **
平成13年度	54.58	平成11年度	42.27	12.31	0.71	10.31	14.30	0.00 **
		平成12年度	53.11	1.46	0.79	-0.75	3.67	0.63
		平成14年度	56.66	-2.08	0.77	-4.24	0.08	0.07
		平成15年度	43.69	10.88	0.76	8.76	13.00	0.00 **
平成14年度	56.66	平成11年度	42.27	14.39	0.70	12.42	16.35	0.00 **
		平成12年度	53.11	3.54	0.78	1.36	5.72	0.00 **
		平成13年度	54.58	2.08	0.77	-0.08	4.24	0.07
		平成15年度	43.69	12.96	0.74	10.87	15.05	0.00 **
平成15年度	43.69	平成11年度	42.27	1.42	0.68	-0.50	3.34	0.37
		平成12年度	53.11	-9.42	0.76	-11.56	-7.28	0.00 **
		平成13年度	54.58	-10.88	0.76	-13.00	-8.76	0.00 **
		平成14年度	56.66	-12.96	0.74	-15.05	-10.87	0.00 **

*P<.05, ** P<.01

表Ⅲ-1-66 申請年度別の中間評価項目得点の多重比較 (第3群)

	平均値I		平均値J	平均値の差 (I-J)	標準誤差	95% 信頼区間		P
						下限	上限	
中間評価第3群 平成12年度	43.98	平成13年度	46.34	-2.36	0.47	-3.60	-1.13	0.00 **
		平成14年度	46.28	-2.30	0.48	-3.55	-1.04	0.00 **
		平成15年度	35.97	8.01	0.48	6.74	9.28	0.00 **
平成13年度	46.34	平成12年度	43.98	2.36	0.47	1.13	3.60	0.00 **
		平成14年度	46.28	0.07	0.47	-1.17	1.31	1.00
		平成15年度	35.97	10.37	0.47	9.12	11.62	0.00 **
平成14年度	46.28	平成12年度	43.98	2.30	0.48	1.04	3.55	0.00 **
		平成13年度	46.34	-0.07	0.47	-1.31	1.17	1.00
		平成15年度	35.97	10.30	0.48	9.04	11.57	0.00 **
平成15年度	35.97	平成12年度	43.98	-8.01	0.48	-9.28	-6.74	0.00 **
		平成13年度	46.34	-10.37	0.47	-11.62	-9.12	0.00 **
		平成14年度	46.28	-10.30	0.48	-11.57	-9.04	0.00 **

*P<.05, ** P<.01

表Ⅲ-1-67 申請年度別の中間評価項目得点の多重比較 (第4群)

	平均値I		平均値J	平均値の差 (I-J)	標準誤差	95% 信頼区間		P
						下限	上限	
中間評価第4群 平成11年度	79.26	平成12年度	89.14	-9.87	0.56	-11.44	-8.31	0.00 **
		平成13年度	88.77	-9.50	0.55	-11.05	-7.96	0.00 **
		平成14年度	89.51	-10.25	0.54	-11.77	-8.73	0.00 **
		平成15年度	82.53	-3.27	0.53	-4.75	-1.78	0.00 **
平成12年度	89.14	平成11年度	79.26	9.87	0.56	8.31	11.44	0.00 **
		平成13年度	88.77	0.37	0.61	-1.34	2.08	1.00
		平成14年度	89.51	-0.38	0.60	-2.07	1.31	1.00
		平成15年度	82.53	6.61	0.59	4.95	8.27	0.00 **
平成13年度	88.77	平成11年度	79.26	9.50	0.55	7.96	11.05	0.00 **
		平成12年度	89.14	-0.37	0.61	-2.08	1.34	1.00
		平成14年度	89.51	-0.75	0.60	-2.42	0.93	1.00
		平成15年度	82.53	6.24	0.58	4.59	7.88	0.00 **
平成14年度	89.51	平成11年度	79.26	10.25	0.54	8.73	11.77	0.00 **
		平成12年度	89.14	0.38	0.60	-1.31	2.07	1.00
		平成13年度	88.77	0.75	0.60	-0.93	2.42	1.00
		平成15年度	82.53	6.98	0.58	5.36	8.60	0.00 **
平成15年度	82.53	平成11年度	79.26	3.27	0.53	1.78	4.75	0.00 **
		平成12年度	89.14	-6.61	0.59	-8.27	-4.95	0.00 **
		平成13年度	88.77	-6.24	0.58	-7.88	-4.59	0.00 **
		平成14年度	89.51	-6.98	0.58	-8.60	-5.36	0.00 **

*P<.05, ** P<.01

表 III-1-68 申請年度別の中間評価項目得点の多重比較 (第4群)

	平均値I		平均値J	平均値の差 (I-J)	標準誤差	95% 信頼区間		P
						下限	上限	
中間評価第4群 平成12年度	82.00	平成13年度	82.93	-0.93	0.43	-2.07	0.20	0.18
		平成14年度	80.77	1.22	0.44	0.07	2.38	0.03 *
		平成15年度	71.39	10.61	0.44	9.44	11.78	0.00 **
平成13年度	82.93	平成12年度	82.00	0.93	0.43	-0.20	2.07	0.18
		平成14年度	80.77	2.16	0.43	1.02	3.30	0.00 **
		平成15年度	71.39	11.54	0.44	10.39	12.69	0.00 **
平成14年度	80.77	平成12年度	82.00	-1.22	0.44	-2.38	-0.07	0.03 *
		平成13年度	82.93	-2.16	0.43	-3.30	-1.02	0.00 **
		平成15年度	71.39	9.38	0.44	8.22	10.55	0.00 **
平成15年度	71.39	平成12年度	82.00	-10.61	0.44	-11.78	-9.44	0.00 **
		平成13年度	82.93	-11.54	0.44	-12.69	-10.39	0.00 **
		平成14年度	80.77	-9.38	0.44	-10.55	-8.22	0.00 **

*P<.05, ** P<.01

表 III-1-69 申請年度別の中間評価項目得点の多重比較 (第5群)

	平均値I		平均値J	平均値の差 (I-J)	標準誤差	95% 信頼区間		P
						下限	上限	
中間評価第5群 平成11年度	49.45	平成12年度	64.99	-15.55	0.77	-17.72	-13.37	0.00 **
		平成13年度	66.87	-17.43	0.77	-19.58	-15.28	0.00 **
		平成14年度	69.80	-20.35	0.75	-22.47	-18.24	0.00 **
		平成15年度	74.49	-25.05	0.74	-27.11	-22.98	0.00 **
平成12年度	64.99	平成11年度	49.45	15.55	0.77	13.37	17.72	0.00 **
		平成13年度	66.87	-1.88	0.85	-4.26	0.50	0.27
		平成14年度	69.80	-4.81	0.84	-7.16	-2.46	0.00 **
		平成15年度	74.49	-9.50	0.82	-11.81	-7.19	0.00 **
平成13年度	66.87	平成11年度	49.45	17.43	0.77	15.28	19.58	0.00 **
		平成12年度	64.99	1.88	0.85	-0.50	4.26	0.27
		平成14年度	69.80	-2.92	0.83	-5.25	-0.60	0.00 **
		平成15年度	74.49	-7.62	0.81	-9.90	-5.33	0.00 **
平成14年度	69.80	平成11年度	49.45	20.35	0.75	18.24	22.47	0.00 **
		平成12年度	64.99	4.81	0.84	2.46	7.16	0.00 **
		平成13年度	66.87	2.92	0.83	0.60	5.25	0.00 **
		平成15年度	74.49	-4.69	0.80	-6.94	-2.44	0.00 **
平成15年度	74.49	平成11年度	49.45	25.05	0.74	22.98	27.11	0.00 **
		平成12年度	64.99	9.50	0.82	7.19	11.81	0.00 **
		平成13年度	66.87	7.62	0.81	5.33	9.90	0.00 **
		平成14年度	69.80	4.69	0.80	2.44	6.94	0.00 **

*P<.05, ** P<.01

表 III-1-70 申請年度別の中間評価項目得点の多重比較 (第5群)

	平均値I		平均値J	平均値の差 (I-J)	標準誤差	95% 信頼区間		P
						下限	上限	
中間評価第5群 平成12年度	51.56	平成13年度	54.59	-3.03	0.56	-4.50	-1.55	0.00 **
		平成14年度	54.76	-3.19	0.57	-4.69	-1.70	0.00 **
		平成15年度	57.54	-5.98	0.57	-7.49	-4.47	0.00 **
平成13年度	54.59	平成12年度	51.56	3.03	0.56	1.55	4.50	0.00 **
		平成14年度	54.59	-0.17	0.56	-1.64	1.31	1.00
		平成15年度	54.76	-2.95	0.56	-4.44	-1.46	0.00 **
平成14年度	54.76	平成12年度	51.56	3.19	0.57	1.70	4.69	0.00 **
		平成13年度	54.59	0.17	0.56	-1.31	1.64	1.00
		平成15年度	57.54	-2.78	0.57	-4.29	-1.27	0.00 **
平成15年度	57.54	平成12年度	51.56	5.98	0.57	4.47	7.49	0.00 **
		平成13年度	54.59	2.95	0.56	1.46	4.44	0.00 **
		平成14年度	54.76	2.78	0.57	1.27	4.29	0.00 **

*P<.05, **

表 III-1-71 申請年度別の中間評価項目得点の多重比較 (第6群)

	平均値I		平均値J	平均値の差 (I-J)	標準誤差	95% 信頼区間		P
						下限	上限	
中間評価第6群 平成11年度	78.65	平成12年度	87.03	-8.38	0.55	-9.91	-6.85	0.00 **
		平成13年度	87.76	-9.11	0.54	-10.62	-7.59	0.00 **
		平成14年度	88.13	-9.48	0.53	-10.97	-7.99	0.00 **
		平成15年度	83.75	-5.10	0.52	-6.55	-3.64	0.00 **
平成12年度	87.03	平成11年度	78.65	8.38	0.55	6.85	9.91	0.00 **
		平成13年度	87.76	-0.73	0.60	-2.40	0.95	1.00
		平成14年度	88.13	-1.10	0.59	-2.76	0.55	0.61
		平成15年度	83.75	3.28	0.58	1.66	4.91	0.00 **
平成13年度	87.76	平成11年度	78.65	9.11	0.54	7.59	10.62	0.00 **
		平成12年度	87.03	0.73	0.60	-0.95	2.40	1.00
		平成14年度	88.13	-0.37	0.58	-2.01	1.26	1.00
		平成15年度	83.75	4.01	0.57	2.40	5.62	0.00 **
平成14年度	88.13	平成11年度	78.65	9.48	0.53	7.99	10.97	0.00 **
		平成12年度	87.03	1.10	0.59	-0.55	2.76	0.61
		平成13年度	87.76	0.37	0.58	-1.26	2.01	1.00
		平成15年度	83.75	4.38	0.56	2.80	5.97	0.00 **
平成15年度	83.75	平成11年度	78.65	5.10	0.52	3.64	6.55	0.00 **
		平成12年度	87.03	-3.28	0.58	-4.91	-1.66	0.00 **
		平成13年度	87.76	-4.01	0.57	-5.62	-2.40	0.00 **
		平成14年度	88.13	-4.38	0.56	-5.97	-2.80	0.00 **

*P<.05 **

表 III-1-72 申請年度別の中間評価項目得点の多重比較 (第6群)

	平均値I		平均値J	平均値の差 (I-J)	標準誤差	95% 信頼区間		P
						下限	上限	
中間評価第6群 平成12年度	78.76	平成13年度	80.17	-1.41	0.44	-2.56	-0.26	0.01 *
		平成14年度	79.49	-0.73	0.44	-1.90	0.43	0.59
		平成15年度	72.36	6.40	0.45	5.22	7.57	0.00 **
平成13年度	80.17	平成12年度	78.76	1.41	0.44	0.26	2.56	0.01 *
		平成14年度	79.49	0.68	0.44	-0.47	1.83	0.71
		平成15年度	72.36	7.81	0.44	6.65	8.97	0.00 **
平成14年度	79.49	平成12年度	78.76	0.73	0.44	-0.43	1.90	0.59
		平成13年度	80.17	-0.68	0.44	-1.83	0.47	0.71
		平成15年度	72.36	7.13	0.45	5.95	8.31	0.00 **
平成15年度	72.36	平成12年度	78.76	-6.40	0.45	-7.57	-5.22	0.00 **
		平成13年度	80.17	-7.81	0.44	-8.97	-6.65	0.00 **
		平成14年度	79.49	-7.13	0.45	-8.31	-5.95	0.00 **

*P<.05 **

表 III-1-73 申請年度別の中間評価項目得点の多重比較 (第7群)

	平均値I		平均値J	平均値の差 (I-J)	標準誤差	95% 信頼区間		P
						下限	上限	
中間評価第7群	平成11年度	平成12年度	93.82	-3.82	0.29	-4.64	-3.00	0.00 **
		平成13年度	94.29	-4.29	0.29	-5.10	-3.48	0.00 **
		平成14年度	94.32	-4.32	0.28	-5.12	-3.52	0.00 **
		平成15年度	94.73	-4.73	0.28	-5.51	-3.95	0.00 **
	平成12年度	平成11年度	90.00	3.82	0.29	3.00	4.64	0.00 **
		平成13年度	94.29	-0.46	0.32	-1.36	0.43	1.00
		平成14年度	94.32	-0.50	0.32	-1.38	0.39	1.00
		平成15年度	94.73	-0.91	0.31	-1.78	-0.04	0.03 *
	平成13年度	平成11年度	90.00	4.29	0.29	3.48	5.10	0.00 **
		平成12年度	93.82	0.46	0.32	-0.43	1.36	1.00
		平成14年度	94.32	-0.03	0.31	-0.91	0.85	1.00
		平成15年度	94.73	-0.44	0.31	-1.30	0.42	1.00
平成14年度	平成11年度	90.00	4.32	0.28	3.52	5.12	0.00 **	
	平成12年度	93.82	0.50	0.32	-0.39	1.38	1.00	
	平成13年度	94.29	0.03	0.31	-0.85	0.91	1.00	
	平成15年度	94.73	-0.41	0.30	-1.26	0.44	1.00	
平成15年度	平成11年度	90.00	4.73	0.28	3.95	5.51	0.00 **	
	平成12年度	93.82	0.91	0.31	0.04	1.78	0.03 *	
	平成13年度	94.29	0.44	0.31	-0.42	1.30	1.00	
	平成14年度	94.32	0.41	0.30	-0.44	1.26	1.00	

*P<.05, ** P<.01

表 III-1-74 申請年度別の中間評価項目得点の多重比較 (第7群)

	平均値I		平均値J	平均値の差 (I-J)	標準誤差	95% 信頼区間		P
						下限	上限	
中間評価第7群	平成12年度	平成13年度	92.42	-1.68	0.21	-2.25	-1.12	0.00 **
		平成14年度	92.24	-1.50	0.22	-2.07	-0.93	0.00 **
		平成15年度	91.99	-1.26	0.22	-1.83	-0.68	0.00 **
	平成13年度	平成12年度	90.74	1.68	0.21	1.12	2.25	0.00 **
		平成14年度	92.24	0.18	0.21	-0.38	0.75	1.00
		平成15年度	91.99	0.43	0.22	-0.14	1.00	0.28
	平成14年度	平成12年度	90.74	1.50	0.22	0.93	2.07	0.00 **
		平成13年度	92.42	-0.18	0.21	-0.75	0.38	1.00
		平成15年度	91.99	0.24	0.22	-0.33	0.82	1.00
平成15年度	平成12年度	90.74	1.26	0.22	0.68	1.83	0.00 **	
	平成13年度	92.42	-0.43	0.22	-1.00	0.14	0.28	
	平成14年度	92.24	-0.24	0.22	-0.82	0.33	1.00	

*P<.05, ** P<.01

(8) 認定回数3回目までの死亡者と生存者の比較

1) 認定回数3回目までの年齢、中間評価項目得点等の差異

認定回数が初回から3回目までの死亡者数は、1584名で、生存者5379名の約3割にあたる。これらの死亡者の特徴を生存者との比較から分析した結果、死亡者は、生存者よりも初回認定の年齢が81.09歳と示され、生存者の78.58歳よりも有意に高かった。

また、初回認定、2回目認定、3回目認定のすべての要介護認定基準時間が生存者よりも死亡者のほうが長かった。さらに、これらの要介護認定基準時間の基礎となる移動や複雑な動作、特別な介護、コミュニケーション、身の回りの世話、問題行動の中間評価項目得点という麻痺を除いたすべての得点が死亡者は生存者よりも有意に低かった。

表 III-1-75 認定回数3回目までの死亡者と生存者における年齢、中間評価項目得点等の差異

	異動区分	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率 (両側)	平均値の差		差の 95% 信頼区間	
認定回数	生存	2.5	1.4	11.9	6961	0	0.464	0.388	0.541	
	死亡	2.04	1.237	12.728	2882.198	0	0.464	0.393	0.536	
2回-3回目月数	生存	8.54	3.385	5.567	2866	0	0.923	0.598	1.248	
	死亡	7.61	3.229	5.741	740.403	0	0.923	0.607	1.239	
初回年齢	生存	78.58	8.448	-10.413	6961	0	-2.509	-2.981	-2.036	
	死亡	81.09	8.357	-10.475	2609.604	0	-2.509	-2.978	-2.039	
初回基準時間	生存	47.456	24.6947	-27.065	6961	0	-20.8412	-22.3507	-19.3317	
	死亡	68.297	33.4493	-23.019	2115.893	0	-20.8412	-22.6167	-19.0656	
初回第2群	生存	71.596	25.7196	13.575	6961	0	10.4509	8.9417	11.96	
	死亡	61.146	30.6878	12.338	2276.934	0	10.4509	8.7898	12.1119	
初回第3群	生存	54.919	24.6157	18.823	6961	0	13.7443	12.313	15.1757	
	死亡	41.174	28.4669	17.396	2323.707	0	13.7443	12.195	15.2937	
初回第4群	生存	89.425	17.4709	18.546	6961	0	10.1699	9.0949	11.2448	
	死亡	79.256	24.105	15.626	2095.876	0	10.1699	8.8935	11.4462	
初回第5群	生存	73.839	25.8894	26.208	6961	0	20.2745	18.758	21.791	
	死亡	53.564	30.7097	23.894	2285.479	0	20.2745	18.6105	21.9384	
初回第6群	生存	88.111	16.4858	10.943	6961	0	5.6068	4.6024	6.6112	
	死亡	82.504	22.1187	9.353	2126.532	0	5.6068	4.4312	6.7825	
初回第7群	生存	94.401	9.768	3.339	6961	0.001	0.9499	0.3923	1.5075	
	死亡	93.451	10.5456	3.203	2438.12	0.001	0.9499	0.3684	1.5314	
2回目基準時間	生存	48.796	24.939	-18.836	4524	0	-19.1302	-21.1213	-17.1391	
	死亡	67.926	32.5311	-15.965	1066.251	0	-19.1302	-21.4814	-16.7789	
2回目第2群	生存	71.019	25.253	9.865	4524	0	9.9762	7.9937	11.9588	
	死亡	61.042	30.9155	8.692	1099.116	0	9.9762	7.7241	12.2283	
2回目第3群	生存	53.679	23.9671	13.865	4524	0	13.0979	11.2459	14.9499	
	死亡	40.582	27.4725	12.725	1138.29	0	13.0979	11.0783	15.1175	

2回目第4群	生存	88.105	18.6786	14.022	4524	0	10.7779	9.2711	12.2848
	死亡	77.327	25.2695	11.627	1049.293	0	10.7779	8.959	12.5968
2回目第5群	生存	70.758	27.0984	18.88	4524	0	20.1525	18.0599	22.2451
	死亡	50.606	30.9729	17.358	1140.124	0	20.1525	17.8746	22.4304
2回目第6群	生存	85.719	18.3915	10.613	4524	0	7.9614	6.4908	9.432
	死亡	77.757	24.1222	8.966	1063.617	0	7.9614	6.219	9.7038
2回目第7群	生存	93.479	10.1827	3.189	4524	0.001	1.271	0.4896	2.0524
	死亡	92.208	11.3164	2.984	1158.721	0.003	1.271	0.4352	2.1067
3回目基準時間	生存	52.385	26.1212	-15.296	2866	0	-20.7184	-23.3743	-18.0625
	死亡	73.103	33.0055	-13.146	630.895	0	-20.7184	-23.8134	-17.6235
3回目第2群	生存	66.11	27.0013	8.685	2866	0	12.0034	9.2935	14.7133
	死亡	54.107	32.3177	7.727	647.175	0	12.0034	8.9531	15.0538
3回目第3群	生存	48.936	23.6669	10.425	2866	0	12.463	10.1188	14.8071
	死亡	36.473	26.6795	9.641	667.532	0	12.463	9.9246	15.0013
3回目第4群	生存	84.423	21.2346	12.001	2866	0	13.2864	11.1156	15.4573
	死亡	71.136	27.4141	10.174	624.944	0	13.2864	10.722	15.8508
3回目第5群	生存	66.666	28.5348	15.02	2866	0	21.5011	18.6943	24.3079
	死亡	45.165	31.094	14.2	680.288	0	21.5011	18.5282	24.474
3回目第6群	生存	82.61	19.856	8.918	2866	0	9.2293	7.2001	11.2585
	死亡	73.381	25.5995	7.567	625.312	0	9.2293	6.8343	11.6243

(9) 中間評価項目得点の初回から3回目までの変化

1) 生存者の変化

生存者は、第1群から7群まですべての中間評価項目得点において初回よりも2回目が、2回目よりも3回目のほうが有意に得点が低くなっていた。

表 III-1-76 生存者の中間評価項目得点の初回から3回目までの変化

	中間評価項目	平均値	標準偏差	最小値	最大値	平均ランク	カイ2乗値
第1群	初回	84.69	17.19	0	100	2.26	473.38 p<0.000
	2回目	80.91	19.87	0	100	2.01	
	3回目	77.20	21.22	0	100	1.72	
第2群	初回	77.21	22.68	0	100	2.2	495.27 p<0.000
	2回目	75.45	22.88	0	100	2.14	
	3回目	66.11	27.00	0	100	1.65	
第3群	初回	58.19	25.53	0	100	2.15	308.13 p<0.000
	2回目	56.54	24.54	0	100	2.11	
	3回目	48.94	23.67	0	100	1.74	
第4群	初回	91.55	15.03	3.6	100	2.16	273.82 p<0.000
	2回目	89.73	17.13	3.2	100	2.06	
	3回目	84.42	21.23	0	100	1.78	
第5群	初回	70.67	26.70	0	100	2.12	71.6 p<0.000
	2回目	69.16	27.13	0	100	1.99	
	3回目	66.67	28.53	0	100	1.89	
第6群	初回	89.46	15.95	0	100	2.25	500.77 p<0.000
	2回目	87.08	17.96	0	100	2.05	
	3回目	82.61	19.86	0	100	1.7	
第7群	初回	94.01	10.42	16.2	100	2.11	106.45 p<0.000
	2回目	93.48	10.39	15.6	100	2.02	
	3回目	92.65	10.91	17.5	100	1.87	

2) 死亡者の変化

死亡者は、第1群から7群まですべての中間評価項目得点において初回よりも2回目が、2回目よりも3回目のほうが有意に得点が低くなっていた。

表 III-1-77 死亡者の中間評価項目得点の初回から3回目までの変化

	中間評価項目	平均値	標準偏差	最小値	最大値	平均ランク	カイ2乗値
第1群	初回	85.78	19.45	0	100	2.27	113.03 p<0.00
	2回目	81.40	22.70	0	100	2.02	
	3回目	75.39	25.18	0	100	1.71	
第2群	初回	71.10	25.87	0	100	2.25	126.17 p<0.00
	2回目	67.78	28.03	0	100	2.13	
	3回目	54.11	32.32	0	100	1.62	
第3群	初回	49.55	26.55	0	100	2.22	76.28 p<0.00
	2回目	45.38	26.50	1.1	100	2.04	
	3回目	36.47	26.68	0	100	1.73	
第4群	初回	86.77	19.41	12.3	100	2.33	180.96 p<0.00
	2回目	82.18	22.61	3.2	100	2.09	
	3回目	71.14	27.41	0	100	1.57	
第5群	初回	58.67	29.16	0	100	2.29	105.31 p<0.00
	2回目	54.77	30.01	0	100	2.05	
	3回目	45.17	31.09	0	100	1.66	
第6群	初回	84.30	21.13	0	100	2.37	171.32 p<0.00
	2回目	80.60	22.66	0	100	2.01	
	3回目	73.38	25.60	0	100	1.62	
第7群	初回	93.38	10.45	32.3	100	2.12	16.141 p<0.00
	2回目	92.41	11.47	12.1	100	1.96	
	3回目	92.37	10.83	33.6	100	1.91	

3) 中間評価項目得点群別生存者、死亡者の変化

中間評価項目得点群別に生存者と死亡者の変化の状況を検討した。この結果、第1群（麻痺など）の得点以外は、生存者は、死亡者よりも初回から3回まで得点が高かった。中間評価項目得点が高いほうが、介護に要する手間は、少ないことを示しており、自立度が高い。

表 III-1-78 中間評価項目の得点群別生存者、死亡者の変化

	初回	2回目	3回目
第1群(死亡)	85.78	81.40	75.39
第1群(生存)	84.69	80.91	77.20
第2群(死亡)	71.10	67.78	54.11
第2群(生存)	77.21	75.45	66.11
第3群(死亡)	49.55	45.38	36.47
第3群(生存)	58.19	56.54	48.94
第4群(死亡)	86.77	82.18	71.14
第4群(生存)	91.55	89.73	84.42
第5群(死亡)	58.67	54.77	45.17
第5群(生存)	70.67	69.16	66.67
第6群(死亡)	84.30	80.60	73.38
第6群(生存)	89.46	87.08	82.61
第7群(死亡)	93.38	92.41	92.37
第7群(生存)	94.01	93.48	92.65

①第1群「麻痺・拘縮に関連する項目」の変化

死亡者も生存者も初回が最も高く、2回目、3回目と減少していた。初回と2回目は、死亡者のほうが生存者よりも得点が高かったが3回目は生存者のほうが高かった。

②第2群「移動等に関連する項目」の変化

第2群は、寝返り、起き上がり、両足での立位保持、歩行、移乗の項目の評価から得点が算出され、高齢者のADL自立度と強い関係性がある。この得点は、初回から3回目まで減少していたが、初回から2回目の現象よりは、2回目から3回目の得点の減少のほうが大きかった。またその程度は、死亡者のほうが大きかった。

③第3群「複雑な動作に関連する項目」

この中間評価項目得点は、立ち上がり、片足での立位、洗身等の項目の評価から算出される。死亡者の得点は、初回から3回目まで生存者よりもかなり低く、2回目から3回目までの得点の減少は、生存者のほうが大きかった。

④第4群「特別な介護等に関連する項目」

この中間評価項目得点は、じょくそう、皮膚疾患、嚥下、食事摂取等の医療的な処置の多さを反映する項目となっている。初回は、両群に大きな差はなかったが、2回目、3回目と得点の差が大きくなる傾向が示された。

⑤第5群「身の回りの世話に関連する項目」

この中間評価項目得点は、必要とされるケアとの関連性が高い口腔清潔、洗顔、整髪、つめきり衣服の着脱、薬の内服、金銭管理、ひどい物忘れといった項目の評価から算出される。生存者の初回から2回めの得点の減少も2回目から3回目への得点の減少もほとんどなかったが、死亡者は、2回目で約4点、2回目から3回目までで10点と大きく減少していた。

⑥第6群「コミュニケーションに関連する項目」

この中間評価項目得点は視力、聴力、意思伝達、指示への反応、日課の理解、生年月日の理解等の項目の評価から算出されている。初回から3回目まで生存者の得点は、死亡者の得点よりも高かった。変化については、初回から2回目よりは、2回目から3回目のほうが大きかった。

⑦第7群「問題行動に関連する項目」

生存者の得点は、1回目から僅かずつ減少していた。一方、死亡者は、1回目から2回目の得点は、減少していたが、2回目から3回目には、ほとんど変化がなかった。

(10) まとめ

認定の申請時点の年齢階層は、75歳以上85歳未満が16186名(40.9%)で最も多く、次いで85歳以上95歳未満が13422名(33.9%)、65歳以上75歳未満が7474名(18.9%)

と示され、後期高齢者の割合がかなり高く、80歳代の認定者が多いことが示された。この傾向は、全国データでも同じである。

また要介護度における一次判定結果を算出するための要介護認定基準時間と中間評価項目得点の経年的変化を分析した。認定基準時間は、介護保険制度が開始された平成11年度が最も長く67.1分と示され、他のすべての年度よりも有意に長かった。平成12年度も同様に、13,14,15年度より、有意に長かった。平成13年度は、11,12年度より、有意に短く、14年度よりは、長かった。認定者全体の要介護認定基準時間は、平成14年度まで下降し続けたが平成15年度に上昇していることがわかった。

これを新規認定と更新認定に分けて分析した結果、更新認定者は、平成12年度がどの年度よりも時間が長かった。平成13年度、14年度の間には、有意な差はないが、平成15年度の認定基準時間が長くなったために、平成13、14年度の更新認定者は、15年度よりも有意に短くなっていた。したがって、全体として新認定における平成15年度の要介護認定基準時間が長くなったのは、更新認定を受けた高齢者の要介護認定基準時間が長くなったためと推察された。

このように平成14年度までの中間評価項目得点の変動には、大きな差異が見られず、平成15年度に異なった傾向が示されたこと、しかしながら要介護認定基準時間は長くなっていることなどを勘案すると要介護認定ロジックの改訂の影響があったことを示している。15年度に改定された要介護認定基準時間の算定方式については疑問がある。介護保険サービスの供給に関して基礎となる上限支給限度額を決定する要介護認定は重要であり、これについては、さらなる検討が必要であると考えられる。

本章では、新規の認定者についての分析を実施した結果、すべての年齢階層において、新規認定者のほうが、更新認定者よりも認定基準時間が短かった。また新規認定者の75歳以上85歳未満の認定基準時間が52.50分と最も短く、95歳以上が75.57分と最も高かった。95歳以上に次いで長かったのは、65歳未満の66.37分で、次いで85歳以上95歳未満の59.40分となっていた。

要介護認定を受けている高齢者として最も高い構成比を示していた75歳以上85歳未満が57.19分と最も短かった。この傾向は、申請年度によって、ほとんど変化がなく、新規および更新認定者においても同様の傾向を示していた。したがって要介護度の悪化予防を検討する場合には、85歳未満の新規認定者に対して予防に資する重点的な施策を検討することが重要であると考えられた。

2.介護保険サービスの利用に関する経年的分析

(1) 目的

高齢化の進展と介護保険制度の認知度が高まるに従い、介護保険サービスの利用量は増加している。そもそも介護保険制度は、利用者本人による介護保険サービスの選択や、介護サービス計画に利用者の意向を反映することを前提とした制度設計がなされていることからこの制度には、需要が喚起されるシステムが内包されていたともいえよう。しかしながら、このような利用者中心の需要喚起型のサービス供給制度を採っていたにも関わらず、この需要と供給をコントロールできるシステムは検討されていなかった。

さらに、この役割を現場で担うポジションとしては、介護サービス計画を作成する介護支援専門員が相応しいと考えられる。しかし、これら介護支援専門員は、むしろ需要を喚起することを是とする民間事業者に属していることから、需要を制限する機能は全く有していない。したがって介護保険サービス供給量をコントロールするための対応策は、予見性の要介護別上限支給限度額で概ね対応可能と考えられていたとも思われる。

国が予定している2005年の抜本的な見直しは、先に述べた問題を解決するため制度の基本的な前提である介護サービス市場と公としての供給における役割分担とそのサービス供給のすみ分けという問題を避けては通れないだろう。

現行のような基準で将来も介護給付を供給しつづけられるかは疑問である。今まさに、給付水準とその給付を受ける基準について再度、真剣に検討しなければならない時期にあるといえよう。若干の障害を持っている程度の高齢者でも上限支給限度額内であれば、潤沢な介護給付が供給されており、この給付制限はその介護保険サービスの適切性とは無関係に提供されている。

「過ぎたるは、及ばざるがごとし」という故事を引くまでもなく、介護の現場において供給過剰なサービス、換言するならば不適切なサービスが提供されている実態は少なくないと聞いている。このような状況で、質の高いサービスとは、不適切なサービスを提供しないことであるとの認識が重要であろう。

そこで本章では、A市における経年的な給付実績データについて収集し、これまで提供されてきたサービスの種類とその組合せについて分析し、さらに高齢者の基本属性や特性に合致したサービス供給がなされているかについて検討するための資料とすることを目的とした。

以上の分析から、要介護高齢者の特性別（年齢階層別、要介護度別）の利用サービスの類型が示されることになると考えている。

(2) 介護サービスデータに関する状況

保険者の介護給付提供月毎のサービス種類に関する組合せの分析については、平成12年4月から平成16年3月までに介護保険受給対象者として認定を受けた11,945名の中で、給付サービスを受けた10,134名の給付データを調査対象とした。

さらに調査対象となったデータの中で下表のサービスを受けた10,129名についてサービス提供月毎のサービス種類の組合せについて分析を行った。分析では、下表の短縮名称を用いた。

表 III-2-1 サービス種類の短縮名称

種類番号	サービス種類の名称	短縮名称
11	訪問介護	訪介
12	訪問入浴	訪入
13	訪問看護	訪看
14	訪問リハビリテーション	訪リ
15	通所介護	通介
16	通所リハビリテーション	通り
17	福祉用具貸与	用貸
21	短期入所生活介護	短生
22	短期入所療養介護（老人保健施設）	短保
23	短期入所療養介護（介護療養施設など）	短医
31	居宅療養管理指導	居指
32	痴呆対応型共同生活介護	痴共
33	特定施設入所者生活介護	特入
41	福祉用具購入費	用購
42	住宅改修費	住改
51	介護福祉施設	福施
52	介護保健施設	保施
53	介護療養施設	医施

(3) 介護保険サービスの利用の実態

1) サービス組み合わせの種類数

被保険者に提供されたサービスの組み合わせについて月毎に分析した結果、1,229のサービスの組合せがあることがわかった。表Ⅲ-2-2は、組合せの発生日数により上位200を表にしたものである。なお組合せのサービス種類の名称は、表Ⅲ-2-3の短縮名称を使用した。

存在したサービスの全組み合わせのうち、組み合わせの割合として1%以上を示していたのは、16通りであった。上位16位のうち2種類以上の組み合わせは、8種類であった。多かったのは、1種類のサービス提供であり、訪問介護が26,625で12.30%を占めた。次が介護福祉施設の利用で25,422で11.75%、通所介護が19,493で9.0%、老人保健施設の利用が15,686で7.24%、通所リハが10,077で4.66%と続いていた。

2種類のサービスの組み合わせは、訪問介護と福祉用具の貸与が複数では多く10,032で4.64%であった。次いで訪問介護と通所介護が6,262で2.89%、通所介護と福祉用具貸与が4,683で2.16%、通所リハと福祉用具貸与が3,675で1.70%、訪問介護と通所リハが2,655で1.23%、通所介護と短期入所生活介護が2,565で1.19%と示され、主に福祉用具貸与との組み合わせが多かった。

3種類以上は、訪問介護と通所介護と福祉用具貸与が3,077で1.42%と示されたのみで複数のサービスを受けている高齢者は少なかった。

表Ⅲ-2-2 サービス種類の組合せ度数表（上位15）

順序	組合せ	N	%	累積%
1	訪介	26625	12.301	12.301
2	福施	25422	11.745	24.046
3	通介	19493	9.006	33.052
4	保施	15686	7.247	40.299
5	通り	10077	4.656	44.955
6	訪介・用貸	10032	4.635	49.590
7	用貸	9891	4.570	54.159
8	医施	9523	4.400	58.559
9	訪介・通介	6262	2.893	61.452
10	通介・用貸	4683	2.164	63.616
11	通り・用貸	3675	1.698	65.313
12	特入	3260	1.506	66.820
13	訪介・通介・用貸	3077	1.422	68.241
14	訪介・通り	2655	1.227	69.468
15	通介・短生	2565	1.185	70.653

(4) 利用者の基本属性別の利用サービスの組み合わせ

1) サービス種類の組合せと性別の関係

男性と女性を比較し、男性のサービス種類の組み合わせとして特徴があるのは、福祉用具の貸与であった。男性の利用割合が女性より高かったのは、訪問看護と福祉用具の貸与 54%、訪問介護、訪問入浴、訪問看護、福祉用具貸与と居宅管理指導の 5 種類 52%、通所介護と福祉用具貸与と居宅管理指導の 3 種類 51%であり、いずれも福祉用具の貸与が組み込まれていた。女性は、老人福祉施設の利用が多く、次いで訪問介護、通所介護と続き、順位は、異なるが男性も上位 3 位までは同じであった。この次に多かったのは、男性の場合は、次に福祉用具の貸与となり、女性の場合は老人保健施設の利用であった。

表Ⅲ-2-3 男性に多いサービス組み合わせ

サービス組合せ	男	%	女	%
訪看-用貸	495	54	420	46
訪介-訪入-訪看-用貸-居指	403	52	374	48
通介-用貸-居指	301	51	290	49
訪入	355	48	391	52
訪看	552	47	629	53
訪入-訪看-用貸-居指	363	46	421	54
訪看-用貸-居指	308	42	429	58
訪介-訪看-用貸	470	42	655	58
用貸	4087	41	5804	59
訪介-訪看	499	41	721	59
訪介-通り-用貸	798	40	1208	60
訪介-訪入-用貸	323	39	506	61
通り-用貸	1409	38	2266	62
通り-用貸-短保	233	37	396	63
通介-居指	484	37	826	63
訪介-訪看-用貸-居指	384	36	680	64
通介-用貸	1626	35	3057	65

表Ⅲ-2-4 男性のサービス組み合わせの上位

順序	サービス組合せ	男
1	訪介	7170
2	福施	4913
3	通介	4774
7	用貸	4087
4	保施	3776
6	訪介-用貸	2857
5	通り	2714
8	医施	2573
9	訪介-通介	1699
10	通介-用貸	1626
11	通り-用貸	1409
13	訪介-通介-用貸	935
17	訪介-通り-用貸	798

表Ⅲ-2-5 女性のサービス組み合わせの上位

順序	サービス組合せ	女
2	福施	20509
1	訪介	19455
3	通介	14719
4	保施	11910
5	通り	7363
6	訪介-用貸	7175
8	医施	6950
7	用貸	5804
9	訪介-通介	4563
10	通介-用貸	3057
12	特入	2618
11	通り-用貸	2266
13	訪介-通介-用貸	2142

表 Ⅲ-2-6 サービス種類の組合せと性別の関係 (上位 30)

順序	サービス組合せ	男		女		合計	
		N	%	N	%	N	%
1	訪介	7170	26.9	19455	73.1	26625	100.0
2	福施	4913	19.3	20509	80.7	25422	100.0
3	通介	4774	24.5	14719	75.5	19493	100.0
4	保施	3776	24.1	11910	75.9	15686	100.0
5	通り	2714	26.9	7363	73.1	10077	100.0
6	訪介・用貸	2857	28.5	7175	71.5	10032	100.0
7	用貸	4087	41.3	5804	58.7	9891	100.0
8	医施	2573	27.0	6950	73.0	9523	100.0
9	訪介・通介	1699	27.1	4563	72.9	6262	100.0
10	通介・用貸	1626	34.7	3057	65.3	4683	100.0
11	通り・用貸	1409	38.3	2266	61.7	3675	100.0
12	特入	642	19.7	2618	80.3	3260	100.0
13	訪介・通介・用貸	935	30.4	2142	69.6	3077	100.0
14	訪介・通り	571	21.5	2084	78.5	2655	100.0
15	通介・短生	603	23.5	1962	76.5	2565	100.0
16	訪介・居指	614	27.0	1657	73.0	2271	100.0
17	訪介・通り・用貸	798	39.8	1208	60.2	2006	100.0
18	通介・通り	435	24.6	1332	75.4	1767	100.0
19	訪介・用貸・居指	425	28.4	1069	71.6	1494	100.0
20	通介・居指	484	36.9	826	63.1	1310	100.0
21	痴共	176	14.1	1069	85.9	1245	100.0
22	訪介・訪看	499	40.9	721	59.1	1220	100.0
23	訪看	552	46.7	629	53.3	1181	100.0
24	居指・痴共	185	16.1	961	83.9	1146	100.0
25	訪介・訪看・用貸	470	41.8	655	58.2	1125	100.0
26	通介・用貸・短生	257	23.3	846	76.7	1103	100.0
27	訪介・訪看・用貸・居指	384	36.1	680	63.9	1064	100.0
28	訪介・訪看・居指	346	32.5	717	67.5	1063	100.0
29	通り・短保	214	22.3	745	77.7	959	100.0
30	訪看・居指	311	32.6	643	67.4	954	100.0

2) 年齢階層別サービス種類の組み合わせ

①65歳未満に多いサービス種類の組み合わせ

訪問介護が最も多く 1210 件、次いで訪問介護と福祉用具貸与が 597 件、福祉用具貸与が 540 件、通所介護が 316 件、通所リハと福祉用具貸与が 215 件、福祉施設利用が 191 件、